

■自由回答意見のまとめ（仮）

1 18歳以上の方に向けたアンケート

① 公共施設・交通機関・まちづくりのバリアフリーへの要望

市役所や駅、道路などのバリアフリー環境に関する意見が多く寄せられています。特に、市役所庁舎については「玄関までの坂道が大変」「通用口が使いづらい」「建て替えを進めてほしい」といった声がみられ、障害者が利用しやすい施設整備を求める意見が目立っています。

また、駅の雨天時の動線や車いす利用時の乗降スペース、歩道の段差、ローズバス停留所の不足など、日常移動に関する不便さも具体的に示されています。公共交通については、「バスの乗り方がわかりにくい」「ルート表示を見やすくしてほしい」「電車運賃の負担が大きい」などの意見もあり、障害特性に応じた移動環境整備の必要性がうかがえます。

② 情報提供・相談支援のわかりにくさ

制度や支援内容について、「どこに相談したらよいかわからない」「情報が届かない」「制度変更が理解できない」といった声が多数寄せられています。特に、高齢障害者や独居者からは、「デジタルについていけない」「一人では手続きできない」「更新手続きが複雑」といった不安が多く示されており、情報弱者への配慮を求める意見が目立っています。

また、「手続きをスマホで完結できるようにしてほしい」「LINE 通知があると助かる」「書類が多すぎる」といったデジタル化・簡素化への要望もみられます。一方で、視覚障害者からは「文字が小さく読みにくい」、聴覚障害者からは「筆談対応してほしい」といった合理的配慮を求める声も寄せられています。

③ 障害特性への理解不足と等級制度への不満

内部障害、難病、精神障害など、“見えにくい障害”に対する理解不足への不満が多くみられます。「見た目ではわからないため理解されにくい」「精神障害は気持ちだけの問題ではない」「等級だけで線引きされるのは納得できない」といった意見が寄せられています。また、「内部障害には2級がなく支援を受けにくい」「3級では支援が少なすぎる」「診断書だけで判断しないでほしい」といった制度面への改善要望もみられます。

「難病だから就職できない」「精神障害への理解が不足している」といった就労面の困難も示されており、障害種別に応じた柔軟な支援の必要性がうかがえます。

④ 就労支援・工賃・経済的不安

就労支援に関する意見では、「A型作業所が少ない」「B型工賃が低い」「仕事を増やしてほしい」「就労定着支援 3 年では短い」といった声が目立ちます。また、「障害年金だけでは生活できない」「物価高で暮らしが厳しい」「交通費助成を拡充してほしい」といった経済的不安も多く寄せられています。特に高齢障害者からは、「老後の施設費用が心配」「年金だけで入れる施設が必要」といった将来不安が示されています。

⑤ グループホーム・入所施設・家族支援への不安

障害者の家族からは、「親亡き後」の不安が繰り返し示されています。重度障害者でも安全に暮らせるグループホームや入所施設の整備を求める意見が多く、「兄弟に負担を背負わせたくない」という切実な思いもみられます。

また、「施設職員が不足している」「支援の質を維持できない」「地域移行といわれても支援が足りない」といった現場の課題も指摘されています。

さらに、「家族会や支援制度の存在を知らなかった」「家族支援をもっと充実してほしい」という意見もあり、当事者だけでなく家族全体への支援ニーズがうかがえます。

⑥ 医療・介護・生活支援に関する困りごと

日常生活支援については、「介護タクシーを使いやすくしてほしい」「在宅支援を利用したい」「草むしりなど生活支援が必要」といった具体的な困りごとが寄せられています。

また、「市のがん検診で配慮がない」「長時間待てない」「障害者向けの日を設けてほしい」など、医療機関利用時の合理的配慮を求める意見もみられます。

健康づくりや運動機会について、「無料で利用できる施設がほしい」「会館で体操がしたい」といった健康維持への希望も示されています。

⑦ 行政対応への不信感と期待

「相談しても何もしてくれない」「アンケートが形だけに感じる」「声が届いていない」といった厳しい意見がある一方で、「丁寧に説明してくれて感謝している」「制度に助けられている」といった肯定的な声もみられます。

特に、「意見を聞くだけで終わらず実行してほしい」「市民意見への回答を公表してほしい」という要望が多く、行政への期待の大きさもうかがえます。

2 18歳未満の方に向けたアンケート

① 放課後等デイサービス・療育体制への要望

障害児支援に関する自由記述では、放課後等デイサービスや療育支援に関する意見が特に多く寄せられています。

放課後等デイサービスについては、「利用日数の制限を柔軟にしてほしい」「長期休暇中の開始時間が遅く、保護者の仕事に間に合わない」「高学年向けのプログラムが少ない」といった意見がみられ、保護者の就労との両立や、年齢に応じた支援内容の充実が求められています。また、「療育内容をもっと詳しく説明してほしい」「事業所ごとの差が大きい」「不適切な運営や暴力事案が心配」といった声もあり、サービスの質や事業所指導の強化を望む意見も寄せられています。

② 保護者支援・相談支援の必要性

保護者自身の精神的負担や孤立感を訴える意見も多くみられます。「いつでも相談できるカウンセラーがほしい」「親が疲弊している」「周囲に理解されずつらい」といった声からは、子ども本人だけでなく、家族支援の重要性が強うかがえます。

また、「親自身も発達特性があり手続きが難しいケースがある」「制度が複雑で理解できない」といった実態も示されており、伴走型の相談支援を求める意見が目立っています。

③ 学校・教育環境への課題意識

学校教育に関する意見では、「グレーゾーンの子どもが通いやすい学校制度が必要」「不登校の子どもや保護者が安心して立ち寄れる場所がほしい」といった声がみられます。

また、「学校内で授業妨害や暴力があり、真面目な子どもが被害を受けている」「学校現場だけでは対応が難しい」といった意見もあり、教育現場への支援体制強化を求める声も寄せられています。さらに、「施設の老朽化」「学校統合問題」など、教育環境そのものの課題も指摘されています。

④ 制度・情報提供のわかりにくさ

制度や助成に関して、「資料を読んでもわからない」「更新手続きを忘れてしまう」「もっとスマホ通知などを活用してほしい」といった意見がみられます。

特に、岸和田市公式 LINE などとの連携による情報発信や、デジタル活用による利便性向上を期待する声が複数寄せられており、子育て世代ならではのニーズがうかがえます。

⑤ 将来不安と家族の高齢化への懸念

障害児の保護者からは、「親が元気なうちは良いが、将来が不安」「家族が介助できなくなった時の受け皿を充実してほしい」といった声が寄せられています。

特に、グループホームや施設整備、民間との連携による受入体制拡充を求める意見がみられ、障害児期だけでなく成人期以降を見据えた支援への期待がうかがえます。

3 重度障害のある人へのアンケート

① 将来の暮らしを支えるグループホーム・入所施設への強い不安

親亡き後の暮らしへの不安が極めて多く寄せられており、とりわけ重度障害者や医療的ケアを必要とする人が安心して暮らせるグループホームや入所施設が不足しているという声が目立ちます。特に、肢体不自由や重度障害、てんかん発作、医療的ケアなどが理由で受け入れを断られた経験や、市外施設を利用せざるを得ない現状が示されており、「本人に合った暮らしの場が見つからない」という切実な不安がうかがえます。

また、「グループホームの数は足りていると言われるが、自分らしく安心して暮らせる場所を選びたい」「重度障害者を受け入れられる専門性や24時間体制が不足している」「量ではなく質を重視してほしい」といった意見もみられ、単なる施設数ではなく、障害特性や生活ニーズに応じた質の高い居住支援が求められています。

親や兄弟姉妹の高齢化・人生設計への影響を訴える声も多く、「兄弟が自分の将来をあきらめている」「親が亡くなった後のことを考えると希望が持てない」といった深刻な記述もみられます。障害のある本人だけでなく、家族全体が長期的な不安を抱えながら生活している実態が浮かび上がっています。

② 短期入所・緊急受入れ体制の不足

短期入所（ショートステイ）に関する意見も非常に多く、特に医療的ケア児・者を受け入れられる短期入所施設が市内にほとんどないことへの不安が強く示されています。介護者の急病や感染症、災害時など、緊急時に預け先がないことを危惧する声が多数寄せられており、「本当に困った時に頼れる場所がない」という現状が強調されています。

また、遠方施設まで送迎しなければならず、移動中の吸引や医療的ケアの負担・危険性についても具体的に示されています。さらに、「当日利用が難しい」「急変時に使えない」といった制度運用上の課題も指摘されており、介護者の安心につながる柔軟な緊急支援体制の必要性がうかがえます。

③ ヘルパー不足と移動支援の使いにくさ

移動支援やヘルパー派遣については、「ヘルパー不足で希望日に利用できない」「短時間しか利用できない」「事業所から突然契約を打ち切られた」など、深刻な利用困難が多数報告されています。

特に、移動支援のみの利用者は採算性の問題から契約継続が難しいという実態が示されており、「親が高齢化した後、外出もできず家に閉じこもるしかないのではないか」という将来不安につながっています。また、グループホームに派遣されるヘルパーの不足や、重度訪問介護の拡充を求める声もみられます。

また、その背景として、障害福祉分野の人材不足や低賃金への懸念も多く、「支援職の待遇改善が必要」「働く人の専門性確保と離職防止が必要」といった意見が多く寄せられています。

④ 医療的ケア・重度障害への支援充実の必要性

医療的ケア児・者への支援については、「看護師がいないと預けられない」「施設側が対応できない」「通院介助が受けられない」など、支援体制の不足を指摘する意見が目立ちます。特に、胃ろう・吸引・人工呼吸器などの医療的ケアについて、「一定の研修を受けた施設職員でも対応できるようにしてほしい」という声や、「成人後に保健所等の支援が切れてしまう」という制度上の切れ目への不安も寄せられています。

また、災害時に必要となる充電設備や避難所情報、障害者避難所の充実など、防災面での支援強化を求める意見も多くみられます。

⑤ 経済的負担の重さと制度改善への要望

経済的負担に関する意見も多く、障害年金だけではグループホーム利用料や生活費、余暇費用を賄えないという切実な状況が示されています。特に、生活保護世帯や重度障害児・者を育てる家庭からは、「親亡き後にお金を残せない」「障害児を育てることで家族が貧困化する」といった不安が示されています。

また、おむつ助成、ゴミ袋支給、タクシー券、給付券などについて、「実情に合った制度にしてほしい」「選択制にしてほしい」「他市と比べて支援が少ない」といった改善要望も多数寄せられています。

「生活介護になると土日の入浴支援がなくなる」「18歳以降に制度が変わり生活しづらくなる」など、ライフステージの変化による支援縮小への不安もみられます。

⑥ 障害福祉サービス・事業所への不信感と質の課題

一部では、障害福祉サービス事業所に対する不安や不信感も寄せられています。虐待や暴力、営利優先の運営、専門性不足などへの懸念が示されており、「利用者を選別しない事業所が増えてほしい」「行政が実態を把握して指導してほしい」という意見がみられます。

また、「職員の対応が以前より厳しい」「必要な制度を教えてもらえなかった」「相談しても改善されない」といった行政対応への不満も複数みられ、制度や支援の“使いにくさ”へのストレスがうかがえます。

⑦ 子育て・就労と障害児支援の両立の難しさ

障害児を育てる保護者からは、「障害児がいることで働き続けられない」「正社員勤務が難しい」「療育や親子通園の負担が大きい」といった声が多数寄せられています。

特に、児童発達支援や通園施設については、「支援内容には満足しているが、利用時間や親の付き添い負担が大きく仕事と両立できない」という意見がみられます。また、障害児保育や延長保育の充実、保護者支援の強化を求める声も目立っています。

⑧ 制度や情報提供・相談支援のわかりにくさ

制度やサービス情報の不足・わかりにくさに関する意見も多く、「どの制度を利用できるかわからない」「調べる力がない家庭ほど孤立してしまう」「フローチャートや冊子などで整理してほしい」といった声が寄せられています。

また、「アンケートを書いても改善されないのではないか」という行政への不信感や、「もっと当事者の声を聞いてほしい」という意見も複数みられ、相談支援や情報発信のあり方そのものへの課題意識がうかがえます。